

令和7年度

県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課

一 般 選 抜

〔 国 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 大問 一 では、漢字について、基本的な書く力、読む力が身に付いているかをみるとともに、書写、文法、古文の基礎的・基本的なことがらについて正しく理解できているかをみるようにした。
- (3) 大問 二 では、霊長類の脳の進化について書かれた文章を読み、内容や筆者の考えが理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (4) 大問 三 では、一冊の本やその著者との出会いによる筆者の変化を描いた随想を読み、内容や表現の効果が的確に理解できているかをみるとともに、読み取った内容を適切に表現する力をみるようにした。
- (5) 大問 四 では、日本語の特徴で魅力を感じるところについて、自分の考えをまとめ、論理的に表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、58.4点（満点100点）であった。
- (2) 大問 一 では、基本的な常用漢字の読み書きや敬語については概ねできている。
- (3) 大問 二 では、文章の内容の基本的な読み取りは概ねできているが、文章の記述をもとに、読み取ったことを表現する力に課題がみられた。
- (4) 大問 三 では、文章全体を通した内容の理解は概ねできているが、描写をもとに、筆者の心情の変化を理解し、説明することには課題がみられた。
- (5) 大問 四 では、自分の考えを伝えようとする態度はみられたが、具体例を示して自分の考えを表現する力に不十分さがみられた。
- (6) 国語科の指導にあたっては、どのような言語活動を通して、どのような資質・能力の育成を目指すかを明確にし、思考・判断し表現することで知識や技能を身に付けさせる授業を構想することが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 5,009 人

問 題				得点者の割合 (%)															
				15点	14点	13点	12点	11点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
一	〔問 1〕	①	漢字の読み書き														55.0		45.0
		②															60.3		39.7
		③															86.0		14.0
		④															75.6		24.4
		⑤															92.4		7.6
		⑥															91.1		8.9
		⑦															35.3		64.7
		⑧															97.2		2.8
	〔問 2〕		書写													83.2			16.8
	〔問 3〕		文法													73.5			26.5
二	〔問 4〕	(1)	古文													62.4			37.6
		(2)														88.6			11.4
	〔問 1〕		理解と表現												29.2	14.4	11.4	4.6	40.5
	〔問 2〕		語彙													73.2			26.8
	〔問 3〕		語彙と理解													89.5			10.5
	〔問 4〕		理解													71.7	0.2		28.0
	〔問 5〕		理解												73.1				26.9
	〔問 6〕	(1)	理解と表現										6.1	5.7	13.5	15.0	17.0	7.6	35.1
		(2)											4.7	4.6	4.4	8.5	9.1	5.9	62.8
三	〔問 1〕		語彙と理解												95.1				4.9
	〔問 2〕		語彙と理解												63.2				36.8
	〔問 3〕		理解												63.8				36.2
	〔問 4〕		理解												74.3				25.7
	〔問 5〕	(1)	理解と表現										33.6	0.1					66.3
		(2)	理解と表現										7.7	7.8	11.3	8.3	7.0	3.6	54.4
四	表現			6.7	8.5	7.6	6.8	6.0	6.6	8.1	8.1	4.5	2.8	3.9	3.9	3.7	2.0	1.3	19.5

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第 2 位以下を四捨五入したものであり、合計が 100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 社 会 〕

1 出題方針

- (1) 出題範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 地理的分野では、世界地理について、デジタル地図の活用を題材に、気候や産業、民族などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。また、日本地理について、大阪・関西万博を題材に、産業や気候などの基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (3) 歴史的分野では、都市の歴史や和歌山県政のあゆみについてまとめたものを題材に、政治や経済、文化について基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (4) 公民的分野では、選挙の流れとその内容や新しく発行された紙幣を題材に、政治や経済などについて基本的な事項を理解しているかをみるようにした。
- (5) 三分野とも、表や図等を題材とし、資料を読み取る力をみるようにした。また、社会的事象の意味や意義を理解し、その内容を適切に表現する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、45.8 点（満点 100 点）であり、各分野の正答率は、地理的分野 62.8%、歴史的分野 38.0%、公民的分野 49.5%であった。
- (2) 地理的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。基礎的な知識を問う問題の正答率は高かったが、地図を読み取り傾向を考える問題の正答率が低かった。
- (3) 歴史的分野では、昨年と比較して正答率が低下した。基礎的な知識を問う問題の正答率は高かったが、近現代の問題や記述で解答する問題の正答率が低かった。
- (4) 公民的分野では、昨年と比較して正答率が上昇した。経済分野は正答率が低く、政治分野は正答率が高かった。資料を読み取る問題や文章で表現する問題の正答率が低かった。
- (5) 社会科の指導にあたっては、社会的・歴史的事象について理解させるとともに、現代社会の課題や取組について興味・関心をもたせることや、歴史については大まかな時代の流れと事象の関係性を理解させることが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 5,009 人

問 題				得点者の割合（％）			
				3点	2点	1点	0点
1	〔問 1〕	(1)	世界の地理		67.3		32.7
		(2)		55.5		44.5	
	〔問 2〕			29.1	17.0	12.8	41.0
	〔問 3〕	(1)		85.2			14.8
		(2)			81.4		18.6
	〔問 4〕			66.6			33.4
	〔問 5〕			53.4			46.6
2	〔問 1〕		日本の地理	78.1			21.9
	〔問 2〕			36.4			63.6
	〔問 3〕			33.3			66.7
	〔問 4〕	(1)			75.4	0.5	24.1
		(2)		42.4	10.7	8.0	39.0
3	〔問 1〕		世界と日本の歴史		36.3		63.6
	〔問 2〕				51.8		48.2
	〔問 3〕			55.0			45.0
	〔問 4〕				42.1		57.9
	〔問 5〕				71.8	1.2	27.0
	〔問 6〕			3.3	4.9	3.4	88.4
	〔問 7〕				60.4		39.6
	〔問 8〕			3.6	6.7	3.5	86.2
	〔問 9〕			38.1			61.9
4	〔問 1〕		世界と日本の歴史 (近現代)		25.7		74.3
	〔問 2〕				25.4		74.6
	〔問 3〕				44.0	0.3	55.7
	〔問 4〕			22.5			77.5
	〔問 5〕			15.3	5.5	10.9	68.3
5	〔問 1〕		日本の政治と経済	48.5	0.2		51.3
	〔問 2〕			33.0			67.0
	〔問 3〕				59.6		40.4
	〔問 4〕	(1)		75.8			24.2
		(2)		77.3			22.7
	〔問 5〕			19.4	17.3	6.3	57.0
6	〔問 1〕		日本の政治と経済		48.7	0.4	51.0
	〔問 2〕	(1)		44.4	0.1		55.6
		(2)		5.4	13.8	12.4	68.4
	〔問 3〕	(1)			36.9		63.1
		(2)		39.6	0.3		60.2
	〔問 4〕			54.8			45.2

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第 2 位以下を四捨五入したものであり、合計が 100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 数 学 〕

1 出題方針

- (1) 出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている各領域、各学年の指導内容全般にわたるように配慮した。
- (2) 「数と式」の領域では、正の数と負の数の四則計算、文字式や無理数の計算、二次方程式の解き方、連立方程式の立式や解き方等についての基礎的な理解力をみるとともに、文字式を利用して、あることがらを数学的に表現し、説明する能力をみるようにした。
- (3) 「図形」の領域では、作図や図形の計量などについての基礎的な理解力をみるとともに、図形の性質の証明により、思考や推論の過程を論理的に表現する力をみるようにした。また、円周角の定理や三平方の定理、相似な図形の性質についての学習内容を活用する力をみるようにした。
- (4) 「関数」の領域では、一次関数や関数 $y = ax^2$ 等についての基礎的な理解力をみるとともに、関数と図形の関係を総合的にとらえ、正しく処理する能力をみるようにした。
- (5) 「データの活用」の領域では、確率の求め方についての基礎的な力をみるようにした。また、与えられた資料を読み取り、正しく処理したり判断したりする力をみるようにした。
- (6) 各領域とも基礎的・基本的な内容の習得ができていくかについてみるとともに、問題解決への関心・意欲、数学的な見方や考え方や事象を数理的に考察する力をみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は 46.5 点（満点 100 点）であった。
- (2) 「数と式」の領域では、昨年と比較して、基本的な計算の正答率は高かった。
- (3) 「図形」の領域では、昨年と比較して、証明問題の正答率は高かった。
- (4) 「関数」の領域では、問題文の意味を理解し、そのことをグラフにおいて考察する問題の正答率は低かった。
- (5) 「データの活用」の領域では、昨年と比較して、確率の問題の正答率は低かった。
- (6) 数学科の指導にあたっては、基礎・基本の知識・技能を習得させるとともに、種々の事象を数学的に表現・処理し、問題を解決することが求められる。

3 各問題別結果

調査人数 5,008 人

問 題				得点者の割合（％）							
				7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問 1〕	(1)	正の数・負の数					98.5			1.5
		(2)	正の数・負の数					84.4			15.5
		(3)	式の計算					85.1			14.9
		(4)	平方根					82.9	0.1		17.0
		(5)	式の展開					72.6			27.4
	〔問 2〕	二次方程式					66.9		0.1		33.0
	〔問 3〕	平方根					34.0	5.3	25.7	1.6	33.5
	〔問 4〕	関数					63.7				36.3
	〔問 5〕	平面図形					24.2	0.1			75.7
	〔問 6〕	データの活用					63.4				36.6
2	〔問 1〕	連立方程式						83.4	1.3	0.6	14.7
		答え						76.9			23.1
	〔問 2〕	(1)	文字式の利用					64.2			35.8
		(2)	文字式の利用			21.5	6.1	4.6	5.2	3.6	59.0
	〔問 3〕	空間図形					23.8				76.1
	〔問 4〕	確率					29.1	0.4	0.2		70.3
	〔問 5〕	(Ⅰ)	データの活用						89.8		10.2
		(Ⅱ)	データの活用						86.2		13.8
		(Ⅲ)	データの活用						88.2		11.8
3	〔問 1〕	関数						59.2			40.8
	〔問 2〕	関数・平面図形					29.5		7.6	1.5	61.4
	〔問 3〕	関数				14.9					85.1
	〔問 4〕	関数			4.5						95.5
4	〔問 1〕	平面図形						64.5			35.5
	〔問 2〕	(1)	平面図形				43.9				56.1
		(2)	平面図形	6.5	0.5	0.3	0.9	0.8	11.8	30.1	49.2
		(3)	平面図形			0.2					99.8

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第2位以下を四捨五入したものであり、合計が100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 理 科 〕

1 出題方針

- (1) 出題範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 自然の事物・現象を探究するために必要とされる基礎的・基本的事項についての知識・理解及び科学的な思考力、問題解決能力が身に付いているかをみるようにした。
- (3) 観察・実験を重視し、探究の過程において結果を分析する能力、判断力及び表現力をみるようにした。
- (4) 第1分野では、気体の性質や光の性質について、基本的事項を理解できているかをみるようにした。また、化学変化と質量の関係や光の屈折について、科学的な思考力と分析力をみるようにした。
- (5) 第2分野では、生物の特徴と分類、堆積岩や化石について、基本的事項を理解できているかをみるようにした。また、生物の成長や地層の広がりについて、科学的な見方や考え方、表現力が身に付いているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、46.3点（満点100点）であった。
- (2) 全般的には、基礎的・基本的な内容を問う問題の正答率は概ね高かったが、計算や作図をする問題の正答率がやや低かった。
- (3) 第1分野では、化学反応の前後での質量の変化を計算する問題や光の反射、屈折のしくみを考察する問題の正答率が低かった。第2分野では、植物のつくりや地層に関する知識を問う問題の正答率は高かったが、地層の見えない部分を推測する問題は正答率が低かった。
- (4) 理科の指導にあたっては、基本的な知識・技能の習得を一層深めるとともに、その内容をうまく活用できるように思考、判断、表現する力を養うことが求められる。そのためには、見通しをもって観察・実験を行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する学習活動を充実させることが効果的である。その際、比較することで問題を見いだしたり、原因と結果の関係に着目して探究の過程を振り返ったりするなど、「理科の見方・考え方」をしっかりと働かせることが大切である。

3 各問題別結果

調査人数 5,008 人

問 題				得点者の割合 (%)					
				5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問 1〕	(1)	進化と動物の特徴 天体の動き 物質の成り立ち			27.8			72.2
		(2)					76.7		23.3
		(3)					79.6		20.4
		(4)				25.6			74.4
		(5)				60.0			40.0
	〔問 2〕	(1)	交流とエネルギー 水溶液と状態変化			6.8			93.2
		(2)					39.0		61.0
		(3)					67.9		32.1
2	〔問 1〕	(1)	いろいろな生物とその共通点 生命の連続性				57.0		43.0
		(2)					95.5		4.5
		(3)					82.2		17.8
		(4)			29.2		29.5		41.3
	〔問 2〕	(1)					67.2		32.8
		(2)					85.8		14.2
		(3)				71.3			28.7
		(4)				6.5	22.0	18.5	53.0
3	〔問 1〕		大地の成り立ちと変化			69.0			30.6
	〔問 2〕					42.0			58.0
	〔問 3〕					36.6	21.7	13.9	27.8
	〔問 4〕					60.7			39.3
	〔問 5〕					51.0	0.3	0.1	48.7
	〔問 6〕						85.9		14.1
	〔問 7〕					5.1			94.9
4	〔問 1〕		化学変化と原子・分子				53.8		46.2
	〔問 2〕					26.0	1.4	0.2	72.4
	〔問 3〕					27.8	0.2		72.0
	〔問 4〕					54.5			45.5
	〔問 5〕					53.5	3.9	1.6	41.0
	〔問 6〕					53.7			46.3
	〔問 7〕					6.7			93.3
5	〔問 1〕	(1)	身近な物理現象			32.3			67.7
		(2)				42.6	0.3		57.0
	〔問 2〕	(1)				55.1			44.9
		(2)		36.4		8.0	30.9		24.8
		(3)				19.6	6.5	7.2	66.6
		(4)				28.9			71.1

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第 2 位以下を四捨五入したものであり、合計が 100 (%) にならない場合がある。

一 般 選 抜

〔 英 語 〕

1 出題方針

- (1) 出題範囲は、中学校学習指導要領に示されている各分野全般にわたるように配慮した。
- (2) 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が身に付いているかをみるようにした。
- (3) 題材については、生徒にとって身近なものを使用し、取り組みやすい内容とした。朝食についてのプレゼンテーション、新聞についての対話、食品ロス問題を通して学んだこと等を取り上げた。
- (4) 「音声」の領域では、身近な場面についての基礎的な対話文を聞いて理解する力をみるとともに、まとまりのある文章を聞いて、その要点を聞きとる力をみるようにした。
- (5) 「理解」の領域では、英文の内容について、その概要や要点を読み取る力、話の流れを筋道立てて理解していく力が身に付いているかをみるようにした。
- (6) 「表現」の領域では、住民向けに開催される講座の内容を読んで、自分がどちらに参加するか、その理由を 25 語以上の英語で自由に表現させることにより、伝えたい内容を適切に表現する力が身に付いているかをみるようにした。

2 学力検査の結果について

- (1) 本年度の平均点は、52.3 点（満点 100 点）であった。
- (2) 「音声」の領域では、文章に沿って情報を適切に聞き取る力は概ね良好であるが、まとまった文章から内容を聞き取る問題では、正答率がやや低かった。
- (3) 「理解」の領域では、英文の概要や要点を読み取る力は概ね良好であるが、適切に文脈を読み取った上で短い英文で表現する力や、指示語が指す内容を正しく把握する力、英語の質問に英語で答える力に課題がみられた。
- (4) 「表現」の領域では、英語で自分の考えを相手に伝えようとする態度はみられたが、指定された条件を正しく読み取り、与えられたテーマについて、英語で正しく表現する力は、受検者の間に大きな差がみられた。
- (5) 英語科の指導にあたっては、言語や文化に対する理解を深めるとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせることが求められ、日常の授業においても 4 技能 5 領域をバランスよく育成する必要がある。

3 各問題別結果

調査人数 5,007 人

問 題				得点者の割合（％）										
				10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
1	〔問 1〕	No. 1	リスニング									55.9		44.1
		No. 2									81.8		18.2	
		No. 3									66.2		33.8	
	〔問 2〕	No. 1	リスニング								57.8		42.2	
		No. 2								50.8		49.2		
	〔問 3〕	No. 1	リスニング								94.1		5.9	
		No. 2									79.3		20.7	
		No. 3									77.4		22.6	
		No. 4									82.7		17.3	
		No. 5									72.6		27.4	
2	〔問 1〕	(1)	内容理解								63.0		37.0	
		(2)	内容理解								45.3		54.7	
	〔問 2〕	(1)	内容理解								75.0		24.9	
		(2)	内容理解								56.5		43.5	
	〔問 3〕	(1)	条件作文								32.3	15.0	3.7	48.1
		(2)	内容理解								63.1			36.9
3	〔問 1〕		内容理解								65.4		34.6	
	〔問 2〕		内容理解								26.1		73.9	
	〔問 3〕	(1)	英問英答							28.7	23.8	17.5	5.0	24.4
		(2)	英問英答							35.2	14.2	9.6	3.8	36.2
	〔問 4〕		内容理解							19.2	11.2	6.5	3.2	59.0
	〔問 5〕		内容理解								51.9			48.0
4	自由作文			6.2	7.3	11.0	10.0	9.4	8.3	6.4	5.1	3.1	2.6	29.8
5	〔問 1〕	A	内容理解									56.1		43.9
		B	内容理解									30.8		69.2
		C	内容理解									44.8		55.2
	〔問 2〕	(1)	英問英答								31.5	19.8	7.5	40.2
		(2)	英問英答								21.4	14.7	3.1	59.9
	〔問 3〕		内容理解							13.1	7.4	4.8	1.5	72.1
	〔問 4〕		内容理解							37.4				62.6
	〔問 5〕		内容理解					31.9			46.9			21.1

(注) 得点者の割合 (%) は、小数第 2 位以下を四捨五入したものであり、合計が 100 (%) にならない場合がある。